

インターネットを使う

ここで勉強すること

- インターネットで用いるパスワード
- インターネットサービスと個人情報
- インターネットにある危険

インターネットで用いるパスワード

インターネットで受けられるサービスの中には、「ログイン」、「サインイン」が必要なものがあります。

これらは、インターネットを使っている人が誰だということを確認するためのもので、これをするだけではじめてインターネットのサービスが使えるようになります。

このとき、ログインに必要なのが「ユーザー名」と「パスワード」です。これは銀行の貸金庫の鍵のようなもので、インターネットのサービスを使うときは、このパスワードを無くしたり誰かにとられたりしないように気をつける必要があります。



ユーザー名は画面上に表示されるなど、メールアドレスや電話番号など隠そうとしても隠せないものを使うサービスが多いので、多くの場合はパスワードを盗まれないように気をつけることになります。

パスワードは、多くの場合アルファベット・数字・記号を何文字か組み合わせたものを使います。このパスワードは、他人に盗まれたり、推測されたりしないように気をつける必要があります。

- あまりに短いパスワードを使わない(最低でも8文字以上が理想といわれています)。
- 誕生日や電話番号などに関係するパスワードを使わない
- 多くのサービスでおなじパスワードを使わない

ただし、あまり複雑にして忘れてしまったり、メモに書かなければいけなくなったりしては意味がありません。自分で覚えやすい決まりを作っておくと便利です。

インターネットサービスと個人情報

インターネットでサービスを受ける場合、どうしても住所や本名、メールアドレスなどの重要な情報をサービスに登録しなければならなくなる人が多いです。

これらの情報については、登録しないとサービスが受けられないものも多く、個人情報を隠そうと思っても限界がある場合があります。

そのため、そのインターネットサービスが信用出来るかどうかを基準に考えることをおすすめします。

パソコンのソフトとおなじですが、インターネットのサービスも、それを作成した人か、紹介した人が信用出来るかどうかを確かめた上で使う必要があるでしょう。

インターネットにある危険

パスワードやインターネットのサービスに公開する個人情報にどんなに気をつけていても、パソコンやインターネットには、これらを盗むための罠があることもあります。

- 本物のサイトによく似た偽物のサイトを見ていて、気付かずにユーザー名やパスワードを入力してしまう。
- いつもと違う方法で「パスワードを入力してください」といわれて、入力してしまう。
- パソコンのキーボード入力を盗み読むソフトが仕掛けられている。

これらの問題を避けるためには、たとえば次のような方法があります。

- メールで「〇〇のサイトにアクセスして確認してください」等といった文章を見ても、直接 Web サイトにアクセスせず、ブラウザソフトからそのサイトにアクセスする(メールに書かれた Web サイトアドレスは偽物の場合があります)。
- 前にそのサービスを使ったときと別の画面が出たときにはパスワードを入力しない(前は日本語でページが表示されるのに、英語でページが表示されたなど)。
- いつも触らないパソコンを使うときは、パスワードを入力したりしない。
- 自分のパソコンにそのようなソフトが入れられないよう、セキュリティソフトは常に最新の状態にする

また、パスワードの入力中に背後からパスワードを読まれることもまだまだ多いです。パスワードを入力するときは、背後に人がいないか確認すると良いでしょう。